

弘前市Well-being地域共創プロジェクト (弘前版PFS/SIBモデル事業)

テーマ①「検討過程における課題と対応策など」

① 検討過程における課題と対応策

▶ よく言われるのが...

提供サービスが多種多様であるが故に、**ステークホルダー（関係者）が多い！**
中間支援組織による事業遂行が大変では？

弘前市Well-being地域社会共創プロジェクト 「メタボリックシンドローム予防・改善事業：PSF事業全体像」



▶ 正直、検討過程において、簡単ではないときも...様々なアイデア、意見が

研究体制 多種多様な連携による強固な地域共創推進体制

【地域共創の場】多種多様な連携による強固な地域共創推進体制

産・学・官・金・民の強固な連携で、強固なオープンイノベーション共創体制を構築



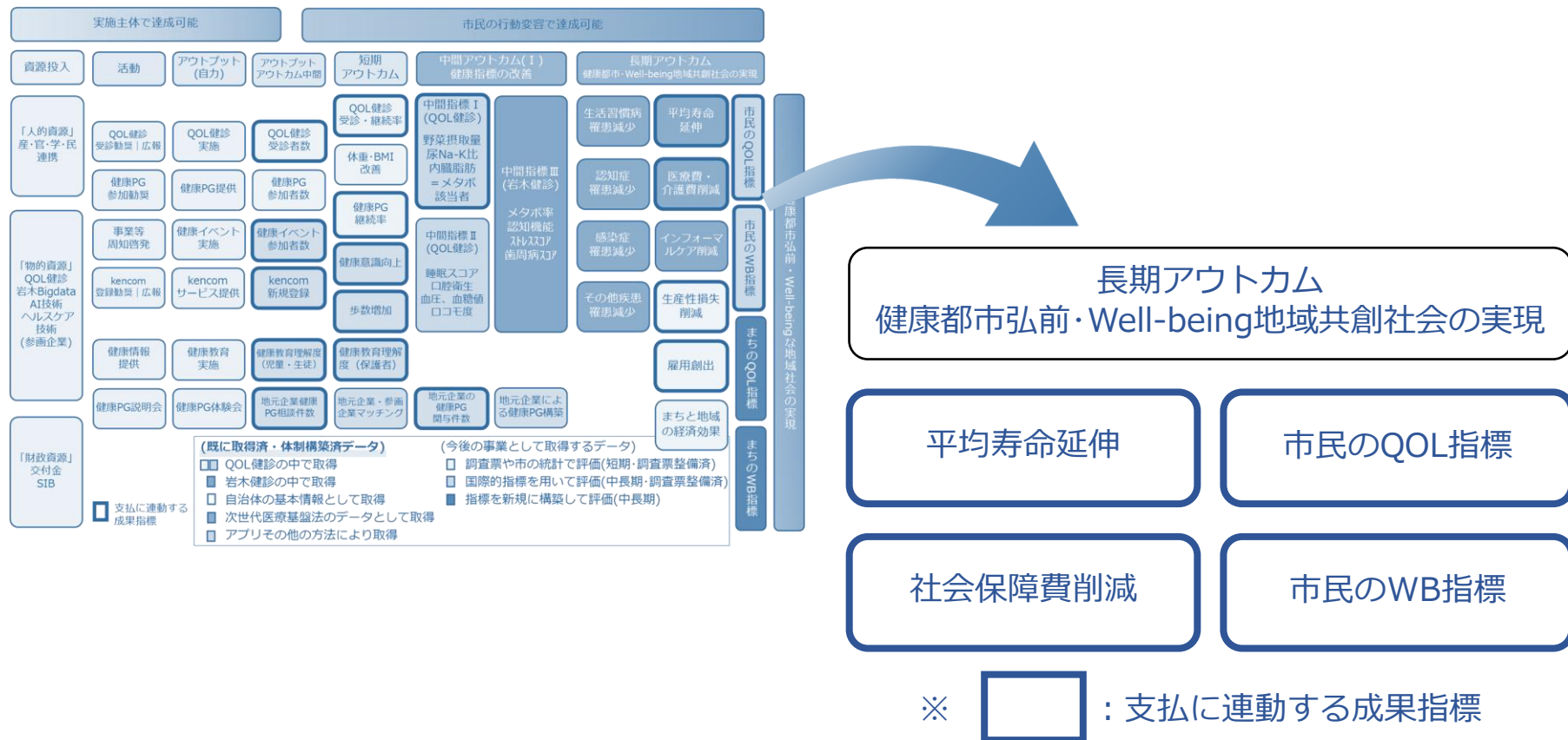
well-beingな地域社会モデルの実現のためには、多様な企業(大手有力企業や地元企業、ベンチャー企業等)、大学・研究機関、弘前市・青森県をはじめとする地方自治体、医師会などの関係機関、健康リーダーや食生活改善推進員などの市民、高校生や大学生といった若い世代等、多種多様なステークホルダーの連携が成功の鍵となり、本拠点ではこの連携を実現してきました。これまでに国内大手ヘルスケア企業を含む多種多様な企業、大学や国立研究開発法人を含む多数の機関がプロジェクトに参画し、組織の壁を超えた多角的、多層的なマルチ連携で強固なオープンイノベーションを構築しています。

プロジェクトの実施機関「健康未来イノベーション研究機構」のもとに、岩木健康増進プロジェクト健診等の推進によりソーシャルキャピタル基盤を支える「健康未来イノベーションセンター」、実世界とサイバー空間の相互連関によるデータ駆動型の社会変革研究を推進する「健康・医療データサイエンス研究センター」、統合リアル・ワールド・データを駆使して未病研究とデータ駆動型の研究を産学連携で推進する「バイオメディカルリサーチセンター」の3つのセンターを備えています。「健康未来イノベーション研究機構」では、毎月1度、全ての参画機関が出席する「健康未来共創会議」を開催し、拠点の運営方針やプロジェクト推進の戦略等を決定しています。

弘前大学COI-NEXTパンフレット8頁の一部を引用
(<https://coi.hirosaki-u.ac.jp/>)

▶ しかし、それは...デメリットではなく、『**メリット**』です
COI-NEXTの枠組みで、**みんなで案件形成**しました(^^)v





長期アウトカムに当たる成果指標も支払に連動！

② 今後PFS事業に期待すること

